

畜産・酪農をめぐる情勢と課題

(飼料コストの高騰を中心に)

令和5年4月28日

農林水産省
畜産局

我が国における畜産・酪農の意義

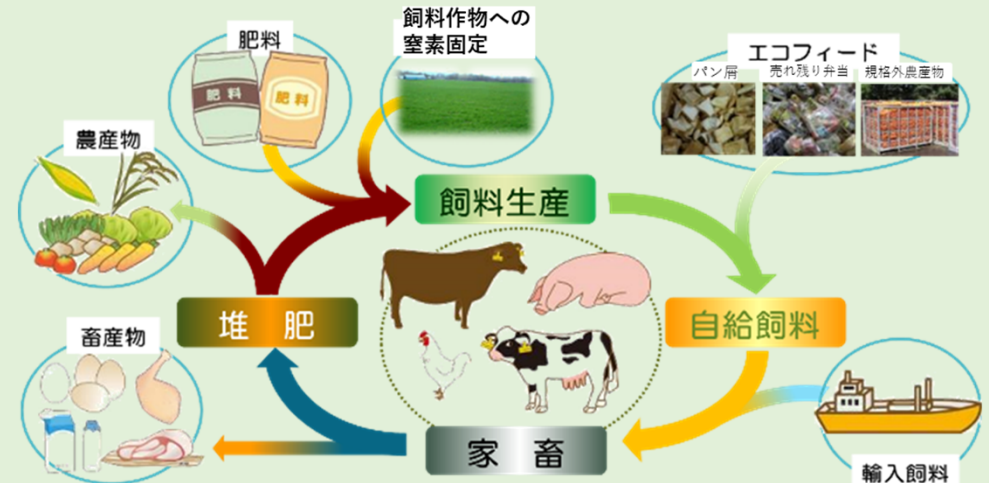
畜産物の安定供給

- 国民生活に必要不可欠な栄養素であるタンパク質等を供給する重要な機能を有する
- HACCPの考え方を取り入れた衛生管理手法の生産段階での導入など、安全な畜産物の安定供給により我が国の食を支える



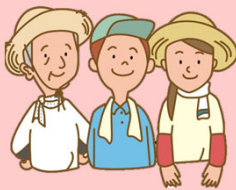
循環型サイクルの形成

- 飼料、家畜、堆肥という循環型サイクルにより成立しており、持続可能な農業の実現に貢献



農村地域の維持・活性化

- 耕種農業が困難な山間地・寒冷地等、条件不利地域での草地利用や林間放牧による土地利用
- 荒廃農地の有効活用
- 景観の維持
- 地域の雇用（加工・流通等、関連産業の裾野が広い）



理解醸成

- 生産者の取組や畜産物に対する消費者への理解醸成
- 動物の飼養管理による子供たちへの教育の場として貢献

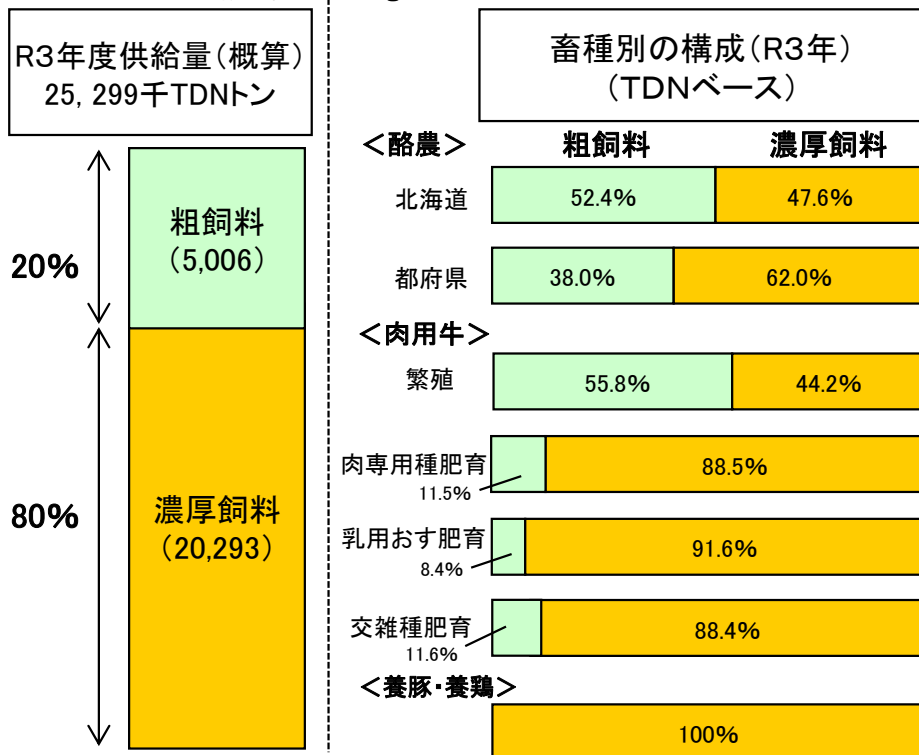


畜種別の経営と飼料

- 我が国の令和3年度(概算)の畜産における飼料供給割合は、主に国産が占める粗飼料が20%、輸入が占める濃厚飼料が80%(TDNベース)となっている。
- 畜産物生産のための様々なコストが上昇する中で、飼料費が畜産経営コストに占める割合は高く、粗飼料の給与が多い牛で3~5割、濃厚飼料中心の豚・鶏で5~6割となっていることから、まずは飼料費の上昇の畜産物価格への反映が最優先課題。

粗飼料と濃厚飼料の割合(TDNベース)

注: TDN(Total Digestible Nutrients): 家畜が消化できる養分の総量。
カロリーに近い概念。1TDNkg≒4.41Mcal

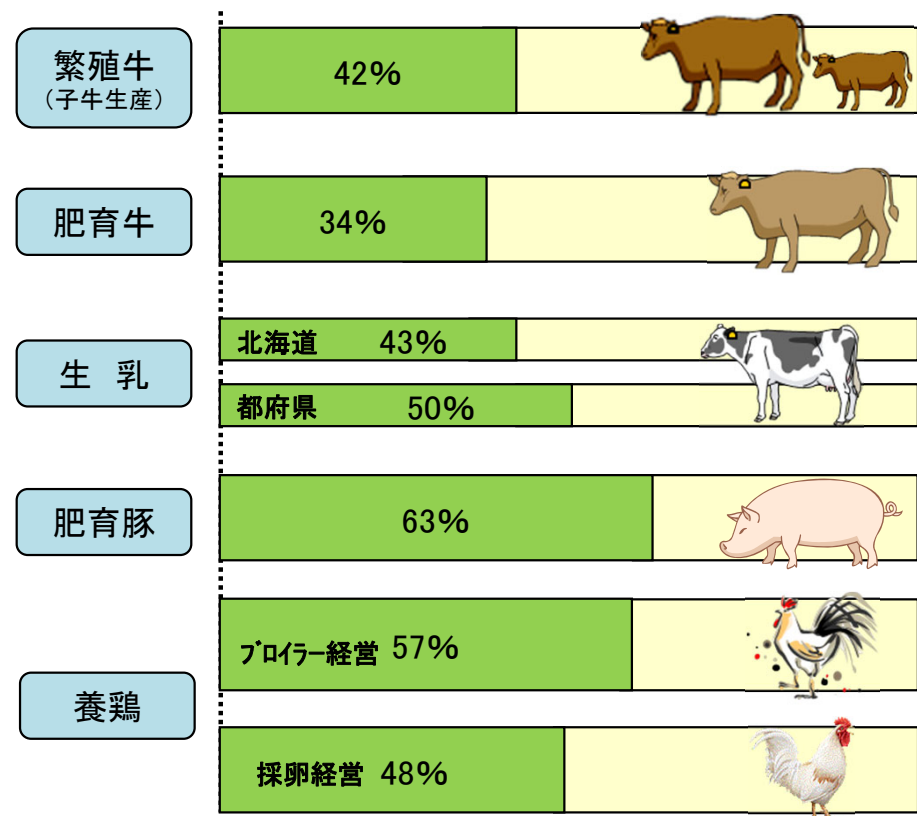


粗飼料: 乾草、サイレージ、稲わら等
濃厚飼料: とうもろこし、大豆油かす、こうりゃん、大麦等

農林水産省「飼料需給表」

農林水産省「畜産物生産費統計」より試算
注: 令和元年調査から調査期間を調査年4月から翌年3月までの期間から、調査年1月から12月までの期間に変更した

経営コストに占める飼料費の割合(R3年)



資料: 農林水産省「畜産物生産費統計」および「営農類型別経営統計」

注1: 繁殖牛(子牛生産)は子牛1頭当たり、肥育牛および肥育豚は1頭当たり

生乳は実搾乳量100kg当たり

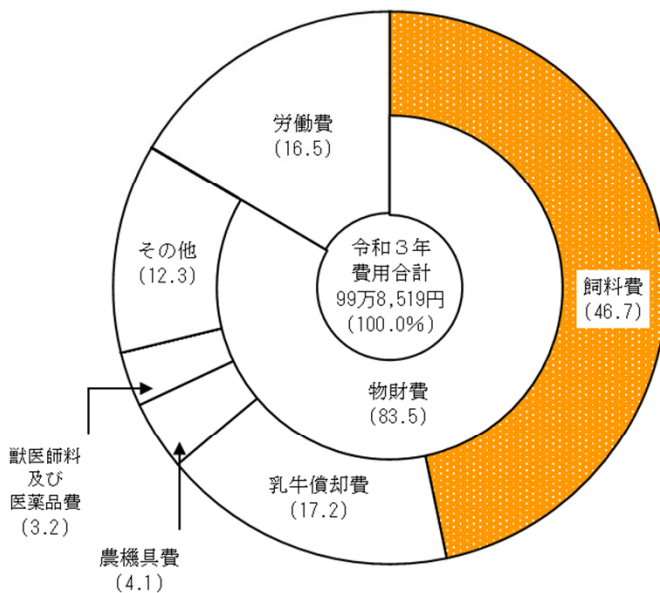
養鶏は1経営体当たり

注2: 畜産物生産費調査は、令和元年調査から調査期間を調査年4月から翌年3月までの期間から、調査年1月から12月までの期間に変更した

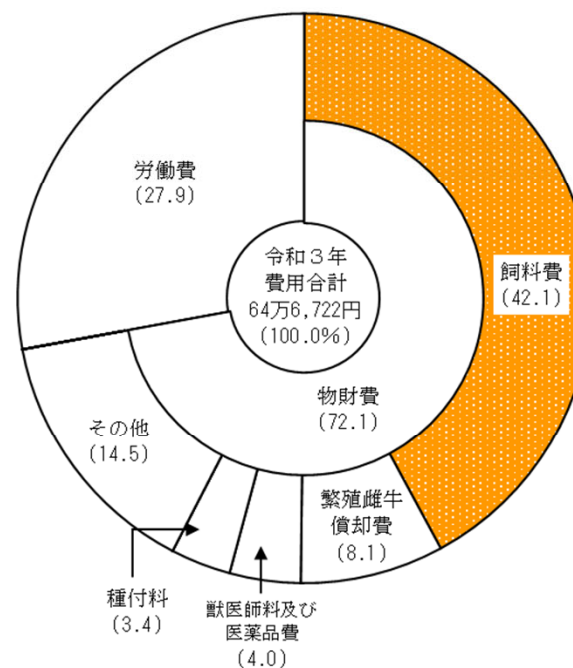
【参考】畜種別の生産費の構成割合（令和3年）

- ・ 乳牛（生乳）及び肉用牛（肉用子牛、肥育牛）の生産費においては、飼料費が3～5割と多くの割合を占める。
- ・ さらに、肥育牛の生産費においては、飼料費が占める割合は約3割であるが、約5割を占めるもと畜費（肥育前の子牛の購入費用）の約4割についても飼料費が占める。

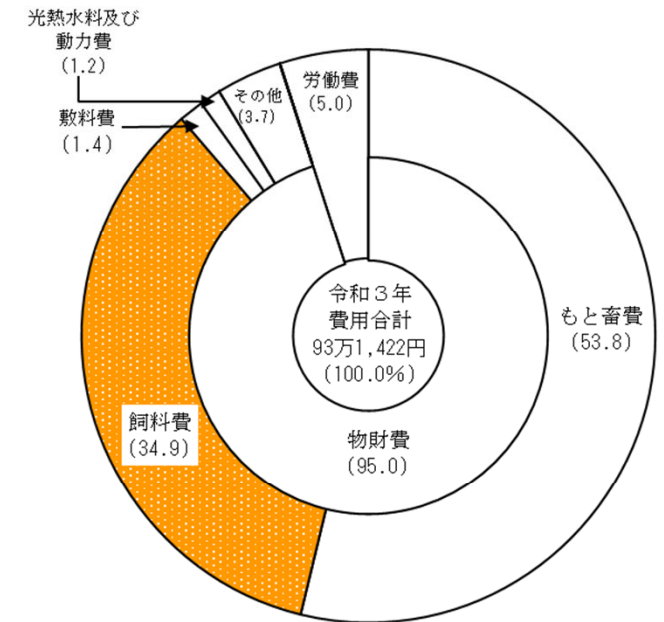
乳牛（生乳）



肉用子牛



肥育牛



資料：農林水産省「畜産物生産費統計」

注1：乳牛（生乳）は全国の搾乳牛1頭当たり、肉用子牛は子牛1頭当たり、肥育牛は去勢若齢肥育牛、交雑肥育牛、乳用雄肥育牛の1頭当たりの平均

注2：飼料費には、配合飼料価格安定制度の補てん金は含まない。